

KOSHIN

保証書

持込修理

レシートまたは
販売証明書と共に
保管してください

この保証書は本書に明記した期間、条件のもとにおいて、下記記載内容で無料修理をお約束するものです。
保証期間経過後の修理等についてご不明な点は、下記の「工進修理受付窓口」へご相談ください。

保証期間内に取扱説明書、本体貼付ラベル等の注意書きにしたがった正常なご使用状態で故障した場合には、本記載内容に基づき無料修理いたします。商品と本書をお持ちいただき下記の「工進修理受付窓口」へ修理をご依頼ください。

機種	ハイデルスポンジ SEV-25L		*お買い上げ日	年 月 日
保証期間	お買い上げより1年間			
お客様	*お名前	〒	* 購入店	〒
	*ご住所			住所 店名 電話 ()
	電話 ()			電話 ()

※に記入のない場合は無効になりますので必ずご確認ください。

株式会社 **工進**

京都府長岡京市神足上八ノ坪 12

- 保証期間内でも次のような場合は有料修理となります。
 - 〈イ〉使用上の誤り、改造、不当な修理、工進指定の純正パーツ以外を使用したことによる故障または損傷。
 - 〈ロ〉お買い上げ後の落下、運送等による故障または損傷。
 - 〈ハ〉火災・地震・水害・落雷・その他天災地変、公害、指定外の使用電源（電圧、周波数）等による故障または損傷。
 - 〈ニ〉家庭用以外（業務用など）に使用された場合の故障または損傷。
 - 〈ホ〉本書のご提示がない場合。
 - 〈ヘ〉本書にお買い上げ年月日、お客様名、購入店名の記入のない場合、あるいは字句を書き換えられた場合。
 - 〈ト〉付属品、消耗品は有料修理となります。

2. 本書は再発行いたしませんので大切に保管してください。
3. この商品は持込修理に限らせていただきます。出張修理はいたしません。
4. 本書は日本国内についてのみ有効です。
5. 保証期間経過後の修理などは、下記の「工進修理受付窓口」へご相談ください。
6. 本機が使用できなかったことによる不便さおよび損失など（電話代、レンタカー代、宿泊代、交通費、休業補償、営業損失など）は補償いたしかねます。

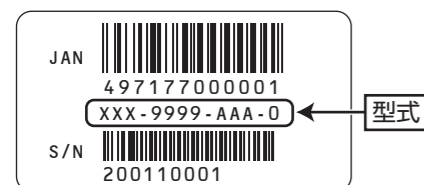
お問い合わせ

お問い合わせの際は、

- 型式(下図参照)、
- お買い上げ年月日、
- 故障状況 など

をお知らせください。

※本体または梱包箱に貼付しています。
一部ラベルのない商品もございます。



型式

株式会社 **工進**



〒617-8511
京都府長岡京市神足上八ノ坪12
<http://www.koshin-ltd.co.jp>

製品・パーツの販売についてのお問い合わせは

購入店またはお近くの弊社製品取扱店にご相談ください。

製品の修理に関するお問い合わせは……工進修理受付窓口へ

電話 **0120-987-386** 平日: 9:00~17:00
会社休業日・土日祝祭日を除く。受付時間に変更がある場合は、弊社ホームページにてご案内します。

ダイレクト修理 ※北海道・沖縄を除く

- ①フリーダイヤルへ電話
- ②修理品を受け取り
- ③センターで修理
- ④ご自宅までお届け
- ⑤お支払いはクレジットカードまたは代引き

製品に関するお問い合わせは……お客様相談窓口へ

Eメール pump@koshin-ltd.co.jp Eメール

電話 **0120-075-540** 平日: 9:00~17:00
会社休業日・土日祝祭日を除く。受付時間に変更がある場合は、弊社ホームページにてご案内します。



SEV-25L

- このたびは、当社製品ハイデルスポンジをお買い上げ頂き誠に有難うございます。
- この取扱説明書には、正しく安全にご使用いただくための注意事項が記載されています。ご使用になる前に必ず本書をお読みにになり、使用方法をご理解下さい。(誤った使用法は事故・ケガの原因となります。)
- 取扱説明書は、何時でも見られるように大切に保管下さい。

取扱説明書は大切に保管下さい。

販売店の記名がない場合は、レシートなどを添付下さい。

仕様変更などにより、本機のイラストや内容が一部実機と異なる場合がありますがご了承ください。

KOSHIN

ハイデルスポンジ

高性能自吸式 エンジンポンプ 取扱説明書(保証書付)

SEV-25L

目次

安全上の注意	1
各部の名称と仕様	3
ご使用になる前に	4
使用方法	7
使用後の注意	8
故障と処置	9
パーツのご注文は	11
保証書	16

株式会社 **工進**

21-03 012160102

安全上の注意

※ご使用前に、この「安全上のご注意」をよくお読みの上正しくお使い下さい。
ここに示した注意事項は製品を正しくお使い頂き、あなたや他の人々への危険や損害を未然に防止するためのものです。また、注意事項は次のように区分しています。


■表示内容を無視して、誤った使い方をした時に生じる危険や損害の程度を次の表示で「危険」「警告」「注意」に区分し、説明しています。


いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守って下さい。

危険 人が死亡または、重傷などを負う可能性が高いと考えられる内容です。



警告 人が死亡または、重傷などを負う可能性が想定される内容です。



注意 人が損傷を負う可能性及び物的損傷の発生が想定される内容です。


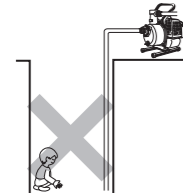
 この記号はしてはいけない「禁止」の内容です。



 この記号は必ず守っていただく「実行」の内容です。


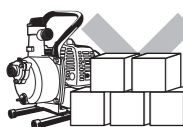
危険

  **燃料補給時など燃料取扱時には、火気厳禁。**
燃料に引火、火災の危険があります。

  **ハイデルスポンプを室内および換気の悪い所では運転しないでください。**
エンジンの排気ガス中には、有害な物質が含まれており、ガス中毒を起こす危険があります。



  **ハイデルスポンプを井戸やくぼ地の脇などで運転される場合は井戸やくぼ地に入らないでください。**
エンジンの排気ガスが井戸やくぼ地に流れ込み、ガス中毒を起こす危険があります。

  **ハイデルスポンプを傾斜地で使用しないでください。**
燃料タンクキャップや気化器から燃料がこぼれ、火災の原因となります。



  **マフラー付近に障害物を置かないでください。**
火災や故障の原因となります。

安全上の注意



警告



  **本体取扱説明書を理解していない人は、ポンプの操作を行わないで下さい。**


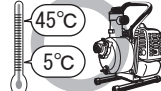
  **ポンプに幼児・子供が触れないよう、隔離措置をして安全な場所で運転して下さい。**



  **修理技術者以外の方は、取説記載内容以外の分解や修理・改造は絶対に行わないで下さい。異常動作してけがをする恐れがあります。**



注意


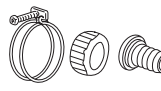
  **火傷の恐れがありますので、熱くなっているマフラーやエンジン各部をさわらないでください。**

  **このポンプを清水または、農業用水以外に使用しないでください。**
使用できないもの：飲料水・泥水・海水・灯油・軽油・重油・ガソリン・薬品・酸性／アルカリ性の液体等。

  **ポンプ使用液温度は5℃以上45℃以下の範囲で使用してください。**
範囲外で使用されますとポンプの破損につながります。

  **空運転（ポンプ内に水のない状態での運転）はしないでください。**
ポンプ破損の原因になります。

  **吸入側ホースは必ずサクシオンホース（市販品）を使用してください。**
使用口径・使用長さにあったホースをホームセンター・農機具店などで買い求めください。

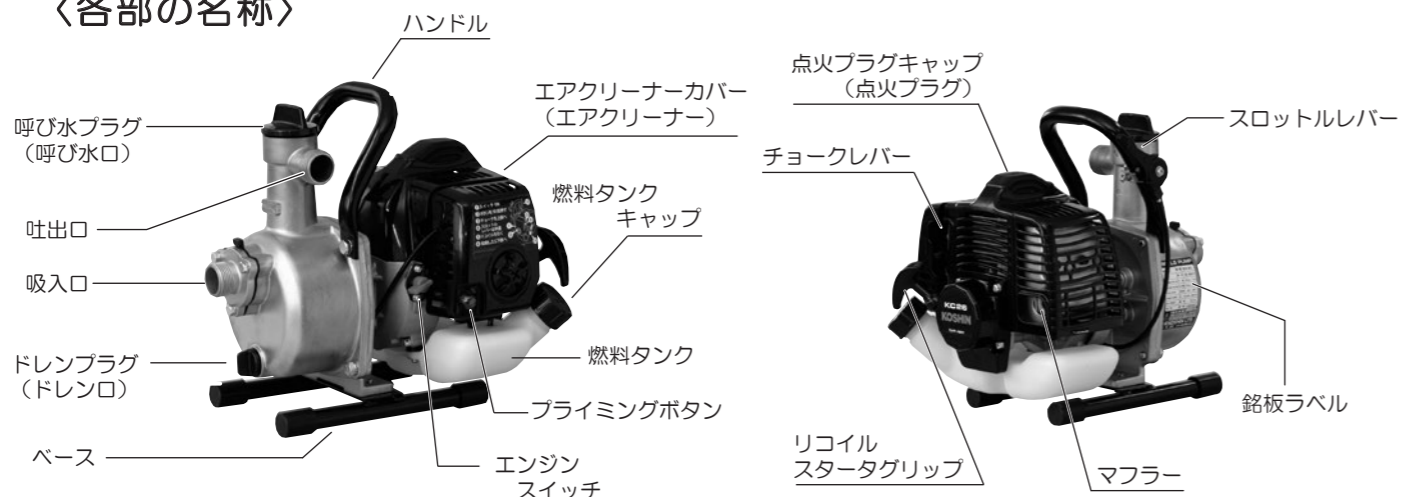
  **吸入・吐出ホースをポンプに接続する際は、製品付属のカップリング、ホースバンドを使用し確実に取り付けてください。**

〈ラベルのメンテナンス〉

- ・製品には、銘板が貼付されています。
- ・銘板が見えにくくなった場合や、はがれた場合にはお買い上げの販売店に注文し、貼りかえて下さい。

各部の名称と仕様

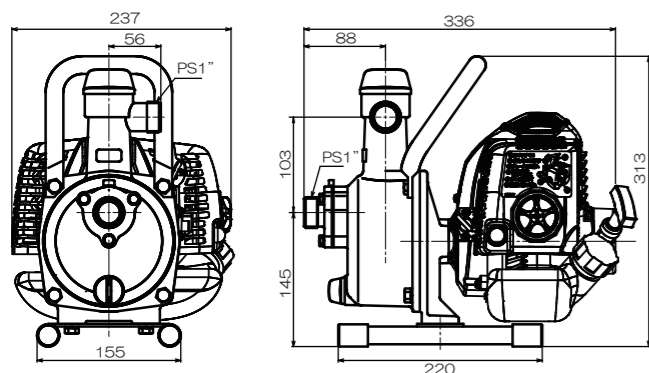
〈各部の名称〉



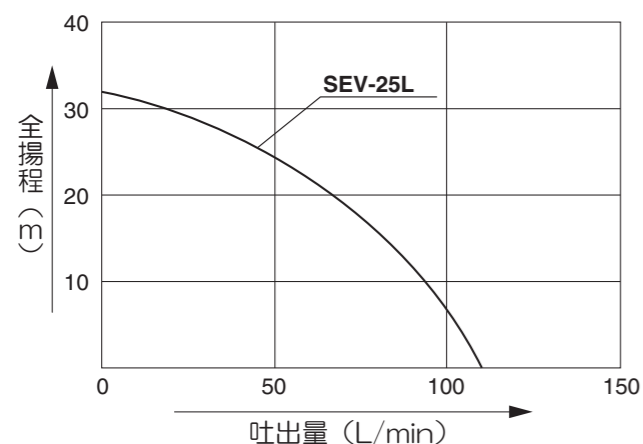
開梱すると本体と次のような部品が入っています。全て揃っているか確認して下さい。



〈外形寸法図〉



〈性能曲線〉



〈仕様〉

機種	SEV-25L
吸入口径	25mm (1")
吐出口径	25mm (1")
接続部ネジ	管用平行ネジ (Gネジ)
全揚程	32m
吸入揚程	8m
最大吐出量	110ℓ/分
型式	空冷2サイクルガソリンエンジン KC26
総排気量	26cc
最大出力	0.7kW (0.93ps) /7500rpm
使用燃料	2サイクルオイル混合ガソリン (50:1)
タンク容量	約0.6ℓ
プラグ	RCJ6Y
始動方式	リコイルスターター方式
燃料消費 (タンク一杯)	約50分
正味重量	5.5kg
標準付属品	ストレーナー1ヶ 吸入ホース3m ホースバンド (φ32)3ヶ ホースバンド (φ22)1ヶ カップリングクミ (25×25) ...2ヶ 竹の子ニップル (25×15)1ヶ エンジン工具一式

ご使用になる前に

① 燃料について

燃料は**2サイクルオイル混合ガソリン**を使用してください。

オイルは、必ずFC・FD級2サイクル専用オイルをご使用ください。

混合比 = 50 (ガソリン) : 1 (2サイクル専用オイル)

※混合ガソリンは農機店、ホームセンター、ガソリンスタンドなどでご購入ください。

⚠ 警告

4サイクルエンジンオイルは使用しないでください。プラグ汚損やピストンリング固着、マフラー詰まりなど故障の原因となります。

⚠ 注意

燃料は非常に引火しやすいため、取り扱いを誤ると火災事故の原因となります。燃料の混合や給油時は必ず火気を遠ざけ、タバコは吸わないでください。

⚠ 注意

燃料がこぼれたら、きれいに拭き取ってから始動してください。

⚠ 注意

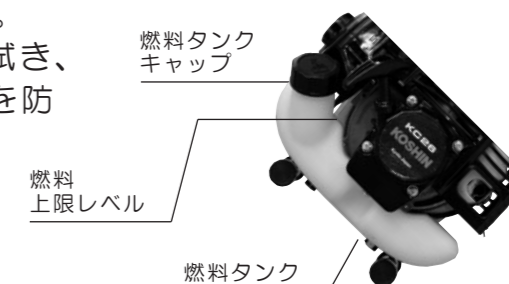
30日以上前の古い燃料はご使用にならないでください。エンジンを30日以上使用しない時は、燃料の変質により始動不良や運転不調の原因となりますので、ご使用後は必ず燃料を抜いてください。

⚠ 注意

燃料補給の際は、必ずエンジンを停止して、十分に冷却した後行ってください。

使用ガソリン… **2サイクルオイル混合ガソリン**

- ①タンクキャップを少しゆるめ、燃料タンク内と外部との気圧差をなくします。
- ②タンクキャップを外し、給油口を上向きになるように傾けて、空気を抜きながら補給します (給油口いっぱいまで入れないでください)。
- ③タンクキャップの周りをよく拭き、異物が燃料タンク内に入るのを防いでください。
- ④補給後、タンクキャップをしっかり締め付けてください。



ご使用になる前に

⚠ 注意	<ul style="list-style-type: none"> 不意な始動を防ぐため、点検・整備時は、点火プラグの配線を外してください。 運転直後は、エンジンが熱くなっていますので触らないでください。 燃料（ガソリン）取り扱い時は、火気厳禁。 燃料がこぼれている時は、きれいに拭き取ってから使用してください。 エンジンを水洗いしないでください。
-------------	--

2 カップリングの取り付け方

⚠ 注意	機種によって付属部品は異なります。ご使用になる口径をご確認の上、必要な部品を取り付けて下さい。
-------------	---

⚠ 注意	吸入側のホース口径を変えて使用することはできません。吸入不良の原因となります。
-------------	---

〈普通のカップリングの場合〉

①カップリング ②竹の子ニップル ③カップリングパッキン
ホースバンド

⚠ 注意	カップリングは必ず①→②→③の順に組み立ててから、ポンプへ取り付けて下さい。パッキンの取り付け順番を誤ると、エア吸い込みの原因となり水を正常に吸い上げることができません。
-------------	---

3 各部の点検

エンジン運転前には必ず点検してください。

エアクリーナの点検

- エアクリーナエレメントが汚れていませんか？
- エレメントが汚れていたり、オイル分が乾燥している場合は「エアクリーナの清掃 (P.9)」に従い点検、整備をしてください。



詰まりの点検

- 冷却フィンやマフラー周辺及び冷却風吸い込み口にゴミや草等、詰まっていますか？
- 詰まっていたら取り除いてください。

ネジやナット類の点検

- 各部のネジやナット類の弛み脱落等はないですか？
- 弛みや脱落等あれば整備してください。

燃料配管部の点検

- 燃料パイプのひび割れや亀裂、燃料タンク・化器への差し込み部からの抜けはないですか？

⚠ 注意	●ひび割れや亀裂、差し込み部からの抜けがあれば燃料が漏れ、火災・爆発の原因になりますのでパイプの交換または整備をしてください。
-------------	---

燃料の点検

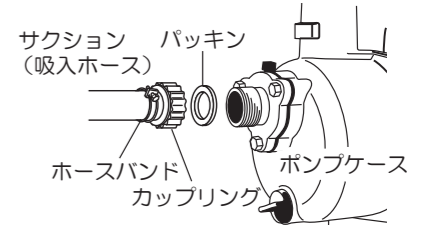
- 燃料は入っていますか？
- 古くなった燃料を使っていますか？
- 「①燃料について (P.4)」の項目に従い正しい燃料を補給してください。

⚠ 注意	●燃料補給時はもちろん取り扱い時に火気には充分気を付けること。火災・爆発の原因になります。 ●燃料タンクキャップは確実にしめてください。
-------------	---

ご使用になる前に

4 吸入ホースの接続は確実に

呼び水口より注水し、運転して揚水しない場合は、ほとんど吸入ホースの接続不良が原因で、吸入側から空気が混入して揚水しません。揚水不能の場合は、まず吸入ホースの接続をもう一度確認の上、運転して下さい。



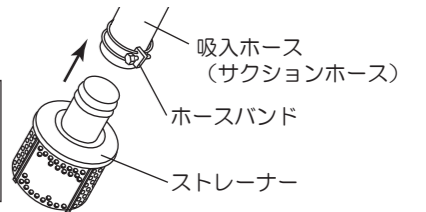
⚠ 注意	<p>サクシオンホースは奥までしっかり締め付けてください。エア咬み混みによる吸入不良を防ぐため、以下の手順でしっかり取り付けてください。</p> <p>①サクシオンホースにホースバンドを通す。 ②サクシオンホースを熱湯につけて*柔らかくする。 ③タケノコ部に軽くオイルを塗る。 ④ホースが柔らかいうちにタケノコ（カップリングなど）を差し込む。 ⑤しっかりホースバンドで固定する。</p> <p>*火傷にご注意ください。また、ドライヤーの温風をあててもやわらかくなります。</p>
-------------	---

⚠ 注意	<p>吸入ホースは付属のサクシオンホースを使用してください。3m以上の長さが必要な場合、つないでのご使用は避け、必要な長さのサクシオンホースをお求めください。ホースの接続には、製品付属のカップリング・ホースバンドをご使用の上、確実に取り付けてください。</p>
-------------	--

⚠ 注意	<p>吸上げ高さは8m以内でご使用下さい。それ以上の高さでは吸い上げることができません。</p> <p>8m 水面</p>
-------------	---

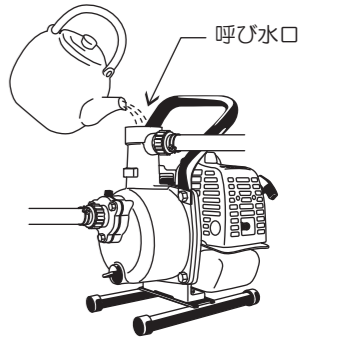
5 ストレーナーの取り付け

⚠ 注意	必ず製品付属のストレーナーを取り付けてご使用ください。使用しない場合、砂や異物をポンプが吸い込み、性能の低下やポンプの破損の原因となります。
-------------	--



6 呼び水は忘れずに

このポンプは自吸式ですので、運転前には必ず呼び水口より水を注入して、ポンプ内を満水の状態にしてください。呼び水が不足すると、自吸性能が低下、または自吸しなくなります。

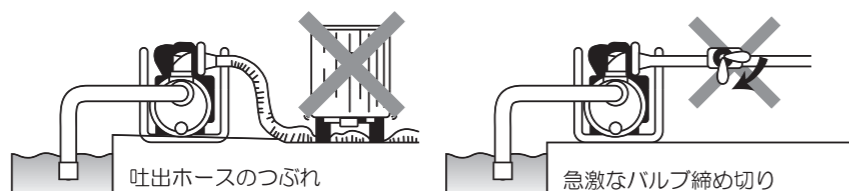


⚠ 注意	呼び水を入れずに運転されるとシール部分が焼損し、ポンプの破損の原因となります。
-------------	---

1. ポンプ内に呼び水が満水であることを確認して下さい。
2. 吸入ホース先端のストレーナーが水中にあることを確認して下さい。(水底が泥・砂状の場合、ポンプに吸入しないよう、ストレーナーを水底より浮かせる等保護措置をとって下さい。)
3. 吐出ホース先端に障害物などが無いのを確かめた上、エンジンを始動して下さい。

注意

ウォーターハンマー現象にご注意下さい。ポンプ運転中に吐出ホースを踏んだり、吐出側のバルブを急激に締め切ったりすると、瞬間的に大きな圧力がポンプケース内にかかります。これはウォーターハンマー現象と呼ばれ、ポンプ破損の原因となりますので、ご注意ください。



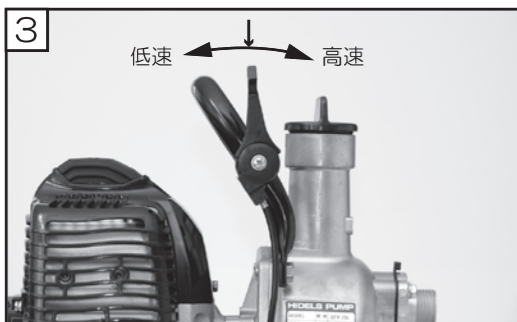
エンジン始動方法



1 プライミングボタンを指で押します。(10回以上) プライミングボタンを押すのは燃料をキャブレターに汲み上げるためです。



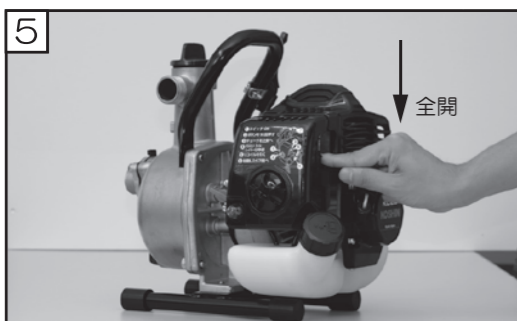
2 チョークレバーを全閉位置(上側)にしてください。燃料が残っていて、且つエンジンが暖まっている場合や夏期は、チョークレバーは全開位置(下側)にしてください。



3 スロットルレバーを“低速”の位置と高速位置の半分まで動かします。



4 エンジンスイッチをONにし、本機を押さえ、リコイルスタータグリップを握り勢いよく引っ張ってください。



5 始動後は、チョークレバーを全開位置(下側)にします。爆発音があっても、始動に到らない場合はチョークを全開位置にして、再度リコイルスタータグリップを引いて下さい。

・本エンジンはプライミングボタン操作を行ったとき、余分な燃料はタンクに戻る構造になっています。プライミングボタン操作を多く行っても吸い込み過ぎにはなりません。むしろ少ない場合には始動不良になることがありますので、充分行ってください。

注意

- ・うまく運転しない場合は、チョークレバー・スロットルレバーの位置を変えて再度繰り返してください。
- ・エンジンポンプの性能を十分に発揮してご使用頂くために、エンジンが冷えている状態からの始動後は十分な暖機運転を行って頂き、急なスロットル操作は行わないようにして下さい。

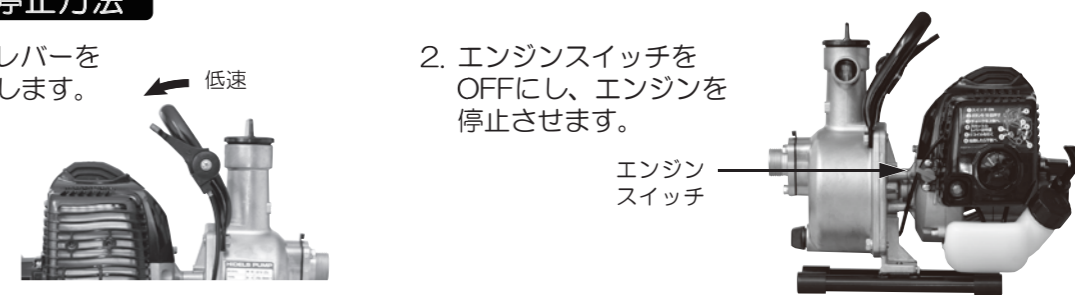
運転中の注意事項

- ・エンジン始動後スロットルレバーを低速位置にして、約1分間暖機運転を行います。暖機と共になめらかな加速が得られます。
- ・始動直後はエンジン各部に潤滑油が充分まわっていませんので急激に回転を上げないようにして下さい。



エンジン停止方法

1. スロットルレバーを低速位置にします。
2. エンジンスイッチをOFFにし、エンジンを停止させます。



・引き続きあとの作業がない場合は、燃料タンクの燃料を抜き取り、再始動して気化器内の燃料を使い切ってください。

注意

火気使用中、休憩などで作業機を使用しないときは、エンジンを水平に置いてください。(タンクキャップが燃料に浸かっていると燃料が漏れることがあります。)

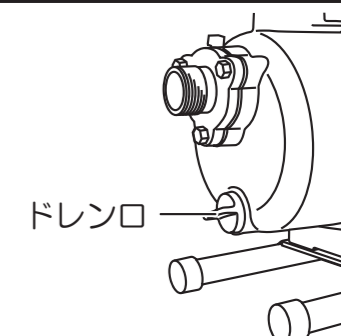


使用後の注意

使用後の排水を確実に

注意

冬期にて0℃以下になりますと、ケーシング内の水が氷になり、ポンプを破損させるおそれがありますので、使用後は必ずポンプケース下部のドレンロより排水してください。



長期保管

30日以上ポンプを使用しないときは、燃料の変質による始動不良や運転不調にならないよう次の要領にて整備し、保管します。

1. 燃料タンク内の燃料を抜き取ったあとに、エンジンを始動して燃料切れでエンストするまで運転します。(呼び水は必ず入れてください。)
2. 燃料タンク内部および燃料フィルタを新しい白灯油で洗浄します。
3. 点火プラグをはずし、プラグ穴より新しいエンジンオイルを少量注入し、リコイルスタータでゆっくり数回転させた後、点火プラグを取り付け、再びリコイルスタータを引っ張って重く感じる位置で止めます。
4. 外面をやわらかい布で清掃し、湿気が少なく火気のない所に保管します。

注意

燃料は非常に引火しやすいため、取扱時には火気をさけ、タバコは吸わないでください。

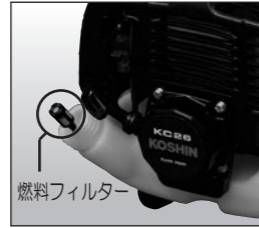
注意

燃料を入れたまま長期間放置すると燃料中の不純物が気化器や燃料フィルタなどの燃料通路につき、エンジン不調の原因となりますので、長期保管時は燃料を必ず抜いてください。

50時間毎の点検・整備

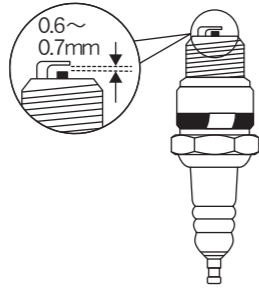
◇燃料フィルターの清掃◇

針金などで燃料注入口から引き出して、きれいな白灯油で洗浄します。汚れがひどいときは、フィルターを交換の上、タンク内も洗浄します。



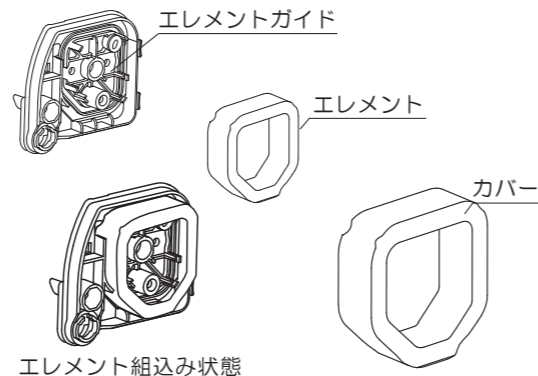
◇点火プラグの清掃と点検◇

・プラグが濡れているときや汚れているときは、布きれなどで拭いてください。
・プラグのすき間は0.6～0.7mmで調節してください。
・点火プラグの清掃やすき間調節をしてもエンジンがかからない場合は、新しいプラグに交換してください。



エアクリーナーの清掃

エレメントを白灯油で洗浄し、固く絞ってからエンジンオイルに浸し、もう一度固く絞ってからケースに組み込みます。このとき、本体の6本のエレメントガイドの外側に正しく挿入してください。

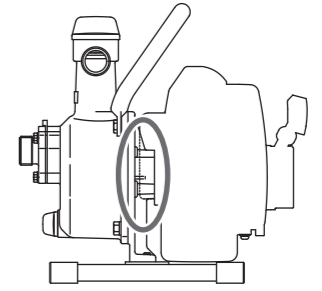


故障と処置

症状	考えられる原因	処置	
リコイルスターターが引けない、または重い	エンジン内のサビ付き	修理	
	エンジンの焼付き	修理	
	インペラの固着	分解掃除 ⇒ P.10処置①	
	インペラへの異物のつまり	分解掃除 ⇒ P.10処置①	
水量が少ない	吸入側にてエアの混入	吸入側の配管チェック ⇒ P.10処置②	
	エンジンの出力低下	点検・修理	
	メカニカルシールの損傷	メカニカルシールの交換（修理）	
	吸入揚程が高い	低くする	
	吸入パイプが細いまたは長い	太くまたは短くする	
	水路の漏水	漏れ止めをする	
	インペラへの異物のつまり	分解掃除 ⇒ P.10処置①	
	インペラ・うず巻の磨耗	インペラ・うず巻交換（修理）	
	吸い上げない	吸入側にてエアの吸い込み	吸入側の配管チェック ⇒ P.10処置②
		ポンプケース内の呼び水不足	呼び水をする ⇒ P.6呼び水は忘れずに参照
ドレン口のプラグの締め付け不良		締め付ける ⇒ P.8使用後の注意参照	
エンジンの回転不良		気化器のオーバーホール等（修理）	
メカニカルシールの焼損（P.10図①）		メカニカルシールの交換（修理）	
吸入ホースがサクシオンホースではない		サクシオンホースを使用する	
エンジンが始動しない	古い燃料使用によるエンジン不調	燃料を入れ替え改善が行われない場合、修理	
	キャブレターが詰まっている	修理	
	プラグかぶり	プラグ点検・交換 ⇒ P.9【50時間毎の点検・整備】の◇点火プラグの清掃と点検◇参照	
	エアクリーナーの汚れ	エアクリーナーの清掃 ⇒ P.9エアクリーナーの清掃参照	
エンジンが数分動いた後止まる	上記を確認しても改善がみられない	エンジン内部部品の損傷（修理）	
	ポンプを傾けた状態で置いている	水平な所に設置する	
	屋内で使用	屋外で使用する	
	または、シートなどが被っている	もしくはシートなどは被せない	
	ガソリンの混合比が合っていない	混合比を合わせる	
燃料が古い	新しい燃料を使用する		

【図①】

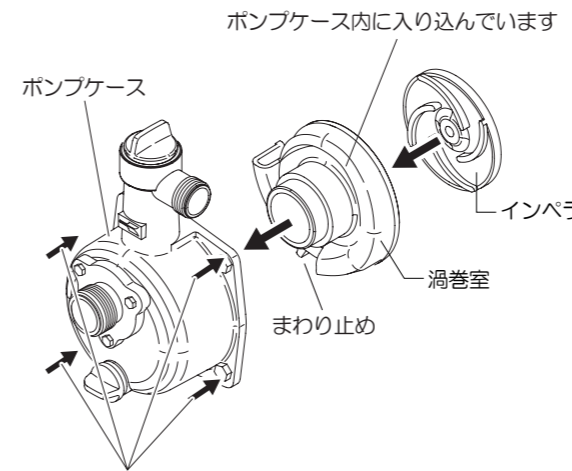
ポンプとエンジンの間（O印下部）から水もれが発生したときは、メカニカルシールの焼損によるものです。販売店へ修理・点検をご依頼下さい。



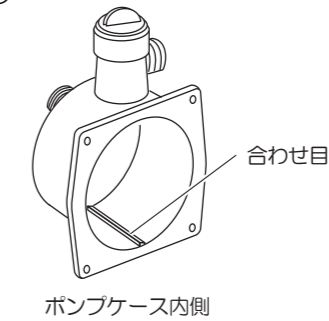
【処置①】

インペラの異物の取り除き方

①ポンプケースの4本のネジをゆるめ、インペラなどに挟まっている異物を取り除いてください。（インペラはシャフトから外さないでください。）



渦巻き室が外れた場合は、まわり止めをポンプケース側の合わせ目に合わせて、取り付けてください。

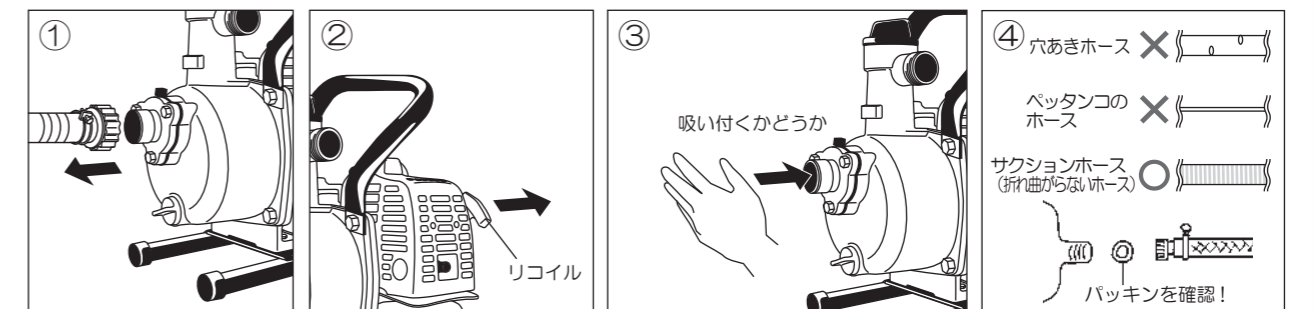


※イラストはイメージです。機種によっては渦巻き室の向きが逆のものもございます。

②異物を外した後、元に戻してください。
※インペラなどが割れていれば、交換が必要です。その際は販売店を通じて修理・点検をご依頼下さい。

【処置②】

吸入側の配管チェック 吸い上げない・水量が少ない場合、その多くが吸入側ホースのエア吸い込みが原因です。この場合下記の手順で確認して下さい。



①吸入ホースを外す。 ②呼び水を入れた状態でエンジンをかける。 ③吸入口に手をくっつけて、約30秒間待つ。手が吸い付く感じがあればポンプ側の問題でなく、ホースの接続不良です。 ④再度パッキンが入っているか、吸入ホースに穴がないかなどご確認下さい。パッキンの噛み込みがないかご確認ください。

注意 ご自分で分解・修理は絶対にしないで下さい。点検・修理は本誌裏表紙に記載の「工進修理受付窓口」へご相談ください。

パーツのご注文は

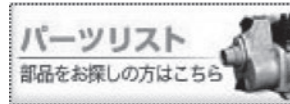
パーツは必ず指定のものをご使用ください。

パーツは購入店または弊社製品取扱店を通じてご注文いただけます。また、下記に記載の無いものも併せて、弊社公式 Web サイトにてパーツ表、価格をご覧ください。

ご注文時のお願い 部品番号（7～9桁）または機種名・JAN、名称、必要な個数を正しくお伝えください。

パーツ表・価格 1) <http://www.koshin-ltd.co.jp>

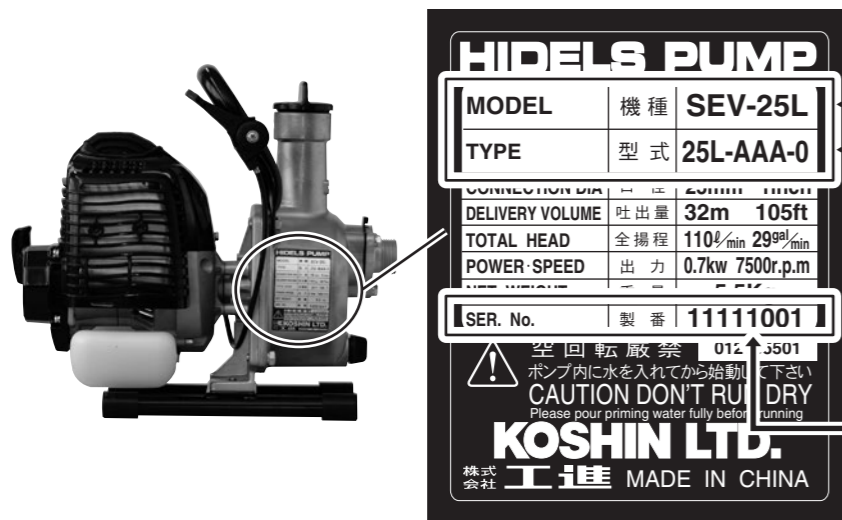
2) トップページ「パーツリスト」バナーをクリック



【 部品ご依頼前の確認事項 】

部品のご依頼前に、下図を参考に機種・型式をご確認ください。

〈 機種、型式、シリアルNo. 記載場所 〉



機種

型式

シリアルNo.

部品をご依頼の際は、この機種と型式をお知らせ下さい。×××-AAA-〇 まで必要です。

生産上の管理番号です。
(7桁か8桁の数字)

パーツのご注文は

付 属 品	部 品 番 号	部 品 名	1台に対する入数
<p>カップリングクミ カップリング カップリングパッキン タケノコニップル (25×25)</p>	0348124	カップリングクミ	2
	0340065	カップリングパッキン	
	0121745	カップリング	
	0121659	25×25 タケノコニップル	
<p>25×15 φ32 φ22 タケノコニップル ホースバンド</p>	0340784	25×15 タケノコニップル	1
	940019032	ホースバンドφ32	3
<p>吸入ホース ストレーナー</p>	940019022	ホースバンドφ22	1
	0118193	ストレーナー	1
	0113837	吸入ホース (3m)	1

部 品	部 品 番 号	部 品 名
<p>32Aプラグクミ ポンプケース 15Aプラグクミ チャッキバルブ 吸入フランジ Oリング</p>	0148010	15Aプラグクミ
	0118450	32Aプラグクミ
	0113329	ポンプケース
	0113326	チャッキバルブ
	0113325	吸入フランジ
	890255031	Oリング

